

第9期 東久留米市地域産業推進協議会
第2回会議録

- 1 日 時 令和7年8月25日（月）午後6時00分～午後7時05分
- 2 会 場 東久留米市役所 7階 703会議室
- 3 出席者等（敬称略・五十音順）

赤星 良平	榎本 義樹	小山 昌宏	齋藤 真理	土田 健太郎	野崎 林太郎
細田 真之介					

欠席：荒委員、陰山委員、工藤委員、塩野委員、篠宮委員

4 議 事

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報告事項

4 各企画振興事業部会の活動状況報告

- （1）にぎわい創出事業部会 （ローカルクリエイションラボ）
- （2）創業支援部会 （スタートアップラボ）
- （3）統括連絡部会

5 協議会の今期の活動について

- （1）本会の進め方
- （2）講演会の企画について（スタートアップラボから）
- （3）はしチョコでの投稿について

6 その他

7 閉 会

1 開 会

【産業政策課長】

ただいまから第9期第2回地域産業推進協議会を開催する。はじめに、本日の配付資料を確認させていただく。

【事務局】

(配付資料の確認)

2 会長あいさつ

【赤星会長】

本会議が開催されるまでに、各企画振興事業部会が開催された。それぞれの部会で、副事業部長の決定や部会名等を協議したかと思うので、それらを本会議で共有いただきたい。委員の方々には、部会の区別なく、地域産業推進協議会の一員として一体となって地域振興や地域活性化に取り組んでいただきたと思う。

3 報告事項

■ 商工会

- ・特になし

■ J A

- ・特になし

■ J C

- ・特になし

■ 事務局

- ・特になし

4 各企画振興事業部会の活動状況報告

(1) にぎわい創出事業部会 (ローカルクリエイションラボ)

■ 概要

- ・第1回を6月27日、第2回を8月22日に実施した。
- ・部会名をローカルクリエイションラボに変更した。
- ・副事業部長を齋藤委員に決定した。
- ・第1回の部会では具体的な取組に関するアイデアを募り、出てきたアイデアをコンテンツと仕組みの二種類で分類した。
- ・第2回の部会では、にぎわいという言葉や、市民のにぎわいであると定義づけた。その上で、部会の取組の方向性を、市民がにぎわう形を目指すものとした。

■ 意見、補足、質疑及び回答

特になし

(2) 創業支援部会 (スタートアップラボ)

■ 概要

- ・第1回を7月24日に実施した。
- ・部会名をスタートアップラボに変更した。表記方法は引き続き検討していく。
- ・副事業部長を陰山委員に決定した。
- ・部会の取組については、第8期で実施した創業支援イベントの続きとして、人と場をつなぐことを目指す方向性とした。具体的な方向性としては、創業希望者と不動産のオーナーをつなげて事業を生み出すものを想定している。
- ・具体的な取組内容の検討前に、先行事例を研究した方がよい旨意見が出た。そのため、先行事例の実施者を講師に招き、地産協委員を対象とした講演会を実施することを検討している。講演会の講師については、株式会社まめくらしの代表である青木氏が候補に上がった。青木氏は大家の学校や店舗運営の研究、公共空間の活用等、地域振興を幅広く行っているため、スタートアップラボだけでなく、地産協全体の取組に通じる部分があると思う。

■ 意見、補足、質疑及び回答

【榎本委員】

講演会の対象については、地産協の委員だけでなく、市内の事業者や過去の地産協委員も含めたいと自分は思っている。対象を増やす場合は、対象者になるべく早めに講演会のことを周知したい。

【野崎副会長】

民間と行政が協働でまちづくりを実施する場合、双方の視点を持って進めていく必要があると思う。そのため、講演会の講師が双方の視点を持っているのはよいと思う。講演会の対象を広げたとしても、自己のレベルアップをしていくという目的は互いに同じだと思う。

【土田委員】

部会名の表記方法は両部会で統一したい。

【榎本委員】

ローカルクリエイションラボがカタカナ表記なので、スタートアップラボもカタカナ表記にした方がよいと考えている。正式な決定は後ほど行いたい。

(3) 統括連絡部会

■ 概要

- ・第1回を8月7日に実施した。元々の想定では、本会議と同日開催を予定していたが、

初回のため本会議と別日に実施した。

- ・統括連絡部会は、各部会の取組や協議内容を共有し、意見交換する場としていく。
- ・はしチョコを活用した地域資源の情報発信は、第9期でも継続して実施する。はしチョコへの投稿自体は榎本委員及び齋藤委員が実施する。ただし、はしチョコ掲載用のコンテンツの情報提供に関しては、各委員にもお願いしたい。
- ・情報発信のあり方を継続していくことが重要という結論が出た。しかし、継続するにあたり、誰が情報発信していくか、どのような情報を取り上げるか、市の他のサイトと情報が重複している等様々な課題がある。第9期での情報発信を通じて、このような課題を整理していきたい。
- ・はしチョコサポーターの一般公募を停止することとした。こちらの仕組みを第9期での活動を踏まえて整理していく。

■ 意見、補足、質疑及び回答

【榎本委員】

自分は文章を考える立場であるが、素材だけ提供いただいても文章を考えることは難しく負担を感じる。可能であれば、素材を提供いただく場合、はしチョコに投稿できる程度の文章も考えていただきたい。そして、それを自分ではしチョコテイストの文章に置き換えていく。

情報発信を担当だけで実施すると、担当の負担が大きくなってしまう。どこかのタイミングで担当が代替わりすることを踏まえると、負担が少ない仕組みにすべきなので、各委員から素材と文章を提供してもらう方法で情報発信をしていきたい。自分や齋藤委員だけで情報発信をすると、地産協で実施している意味がなくなってしまうので、ぜひお願いしたい。

【赤星会長】

はしチョコの情報発信方法に関しては、後ほど事務局からも説明する。

5 協議会の今期の活動について

(1) 本会の進め方

【赤星会長】

第8期の本会議は、部会の報告及びその質疑応答が中心となり、情報共有の場となっていた。第9期では、各委員には事業部の一員である以上に地産協の委員であることを自覚してもらいたい。自身の所属する事業部のことのみ発言するのではなく、地産協全体に対し自由闊達に発言いただければと思う。

【野崎副会長】

両部会ともに足並みを合わせ、所属していない部会の活動にも参加していけると盛り上がるかと思う。そのような意味でも、講演会を通じて両部会ともに勉強して進んでいけれ

ばと思う。

（２）講演会の企画について（スタートアップラボから）

【赤星会長】

スタートアップラボから講演会の実施を企画している旨報告があったため、事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】

スタートアップラボでは、人と場をつなぐ取組を検討することになった。その検討を進めていく中で、先行事例として株式会社まめくらしの代表である青木氏の名前が出た。青木氏は大家の学校の他にも、富岡市のリノベーションまちづくりや岡崎市のQURUWA戦略といったまちづくりの周遊性向上事業にも関わっている。それ以外でも、阿佐ヶ谷の映画祭や動物公園のワークショップ、公共空間の活用といった、地域の活性化や地域資源の創出、地域人材の育成を実施している。

そこで、スタートアップラボの取組を検討する上でのヒントとして、青木氏に講演してもらうことを検討した。その過程で、スタートアップラボだけでなく、地産協全体の活動にもヒントになることを青木氏に伺う旨の提案が部会から出たため、統括連絡部会でもその提案を共有させていただいた。具体的な講演内容等はこれからスタートアップラボで検討していくが、皆様から意見等をいただければと思う。

【細田委員】

青木氏が実施しているリノベーションまちづくりとは、遊休不動産、つまり使っていない建物を民間事業者に貸し出すことで、空き家を解消してまちを活性化していく取組である。自分が草加市のリノベーションまちづくりに参加した際、青木氏がそのスクールマスターであった。

青木氏の名前をスタートアップラボに出した経緯としては、スタートアップラボで検討した人と場をつなげる取組が、青木氏のリノベーションまちづくりの趣旨と合致したためである。青木氏は様々な取組を実施しているため、講演会を行う際は、聞きたいことを絞って実施の方がよいかと思う。民間と行政の二つの視点を持っているので、双方の立場から話を聞くことができると思う。

【土田委員】

第２回ローカルクリエイションラボでも、部会の取組として映画祭を実施する案や、地域の担い手の掘り起こし不足が課題であることが部会内で話題に上がった。講演会を実施する際は、東久留米に関わりのある人も一緒に講師で出ていただき、青木氏の話をも東久留

米の状況に合わせて落とし込める形にできるとよいと思った。

【細田委員】

過去に、自分の職場で青木氏に講演会をしてもらったことがある。その際は、自分と青木氏と不動産コンサルタントの方の3人によるクロストーク形式で遊休不動産の活用方法をテーマに講演会を実施した。東久留米は、これから空き家になるだろう建物が多いため、空き家となる前に何か対策をする必要がある等、様々な課題があるかと思う。

【土田委員】

可能であれば、一度青木氏に東久留米を歩き回ってほしい。そうすれば、東久留米の状況をより理解でき、東久留米内での青木氏の知名度も上がるかと思う。

【細田委員】

青木氏の方から、東久留米に新しくできたレストランを訪れたい旨打診があったので、そのタイミングでまち歩きを実施する形で企画していきたい。その際は、滝山地域や滝山商店会も回りたいが、他に歩き回る場所を地産協内で協議していければと思う。

【赤星会長】

このまま前向きに進めていただければと思うので、ぜひよろしくお願いいたします。

(3) はしチョコでの投稿について

【事務局】

榎本委員からも話があったとおり、各委員から、地域資源に関する情報及びその紹介文を提供いただければと思う。はしチョコの投稿を実施する側にあまり負担がかからない形で継続できればと思う。情報提供についてはL o G oチャットで行うが、ゲストユーザーからだと画像等のファイルが保存できない。そのため、画像等の投稿があれば、事務局から榎本委員及び齋藤委員に別途送付する。

6 その他

【事務局】

各委員の名刺を事務局で作成する。配付は次回の各部会実施時を予定しているが、スタートアップラボをどのように表記するかが定まっていない。定まり次第、スタートアップラボの名刺作成に取り掛かりたい。

【榎本委員】

ローカルクリエイションラボがカタカナ表記なので、スタートアップラボもカタカナ表記としたい。

【事務局】

では、カタカナ表記で名刺を作成していく。各委員には名刺を50部配付し、追加分が必要であれば、事務局で増刷しお渡しする形で実施していきたい。

また、令和7年4月から市の会議の方針が変更となった。これに伴い、公開している議事録について、発言者の委員名を原則公表することとなった。現状だと、本会議の議事録を公開しており、委員名を非公表としているが、これを公表してよろしいか委員から意見を伺いたい。なお、委員名は原則公表となるが、委員から公表することに反対意見があれば、議事録上、発言者名をA委員、B委員と置き換える対応も可能である。

【野崎副会長】

会議の方針が変わった背景を教えてください。方針の改定前だと、他の委員会では委員名の公表をどのように扱っていたかについても教えてください。

【事務局】

背景としては、市の委員会ごとで委員名を公表するかが異なっていたため、それを統一する目的がある。また、情報公開条例の観点から、基本的には情報を公開することになっているため、原則公開という形になった。

【赤星会長】

特に反対意見がないため、委員名を公表する形とする。

【事務局】

令和7年4月から会議方針の変更が適用させるため、既に公開済みの第1回本会の議事録も公表する形で会議録を差し替えるがよろしいか。

【赤星会長】

特に反対意見がないため、差し替えて構わない。

【事務局】

では、今後の議事録では発言者の委員名を公表し、第1回の議事録についても委員名を公表する形に差し替える。

また、第8期で地産協から切り離したナイトマルシェだが、主催者を事業者とした形で実施する形で進めている。実施日程は9月19日（金）の午後5時から午後7時を予定しており、志乃、足もみすみちゃん、はやちゃんのパンや、ユメノキの4団体が出店予定である。（注記：後日、志乃は呑喰屋おもてに変更となった）

【榎本委員】

ナイトマルシェについて、主催者からはしチョコへの掲載依頼が来るということによろしいか。

【事務局】

主催者から事務局に情報が来るかと思うが、ナイトマルシェは地産協から切り離したため、市民みんなのまつりのようなイベントの一種としてはしチョコで取り上げてもらえればと思う。

7 閉 会

【産業政策課長】

次の開催については、12月初頭ごろを予定している。

【赤星会長】

本日の会議は出席者が少なかったので、なるべく早めに日程調整いただきたい。

【産業政策課長】

承知した。

【赤星会長】

最後に、市民部長よりご挨拶いただきたい。

【市民部長】

各部会の名称も決まり、それぞれの部会で方向性も見えてきたように思える。この方向性は委員の皆様の力で好きなように変えられるので、委員の皆様の思いでどんどん広げていっていただければと思う。事務局はその方向性を支えていくのが仕事であるが、この仕事を通じてまちを盛り上げていく経験を積み上げたいという思いもある。委員の皆様の力を最大限発揮できるよう、微力ではあるが事務局も精一杯やっていきたいと思います。

【産業政策課長】

これにて、第2回東久留米市地域産業推進協議会を閉会としたい。